



仲間と共に

学校目標 「めあてをもち 仲間と共に やりぬく心」

令和6年5月31日

自分で確かめ、納得してこそ、本当の力になる

校長 石田耕太郎

爽やかな青空のもと、5月25日（土）4年ぶりに全校一斉の運動会を開催することができました。当日は、多くのご来賓の皆様や保護者の皆様、地域の皆様にご参観いただきまして、誠にありがとうございました。

昨年5月新型コロナウイルス感染症が感染法上の5類移行を受け、それ以降徐々にコロナ禍以前の日常や取組が戻ってきました。しかし、昨年度は5類移行直後ということもあり、同日に「学年別運動会」を低学年の部、中学年の部、高学年の部の3回に分けて行いました。それぞれの学年が、個人や団体に精一杯競技や演技を行う姿はとても素敵なものでしたし、どの子供たちの顔にも笑顔があふれていました。とりわけ、コロナ禍の中では運動（体育の授業）にも制限がなされていたこともあり、一層子供たちがのびのびと躍動する姿が印象的でした。しかし、わずかな休み時間に教室の窓から他学年の様子を見つめ、応援する姿や競技の準備や後片付けに奔走する先生方の姿を見ていると、「子供たちが主体者となって活躍できる運動会でありたい」という思いが強くなりました。そこで、今年度は互いの頑張りを認め、応援し、下学年にも高学年の頑張りが伝わる全校一斉の運動会を企画しました。そうした思いに基づき、児童会企画委員の5・6年生が「どんな運動会を目指したい」のかを話し合い、スローガン「**団結 みんなが 笑顔で 最後まで**」を設定しました。運動会の取組期間中、写真のように校舎の窓に貼られたスローガンが、一人一人の頑張りを活かし、活躍する姿を見守ってくれました。また、責任をもち係活動に取り組む高学年の姿を見られた地域のご来賓の方からも、「この子供たちの素晴らしい力を市民運動会にも活かしたい」という言葉をいただきました。今後、ふるさと三輪南の地で生き生きと活躍する子供たちの姿が見られると思うと、心が躍ります。

令和6年度三輪南小学校運動会スローガン



そうした中、ある言葉に出会いました。長崎県立大学の学長である浅田和伸氏は、「玉石混交の情報が溢れる現代社会において、私が特に重要だと考えるのは、「疑う力」「信じない力」です。不確かな情報に皆が流されることほど危ないことはありません。マスコミに出ていようが、有名な人の言葉だろうが、大勢が言っていようが、正しいとは限りません。自分で確かめ、納得してこそ、本当の力になります。（長崎県立大学HP「令和6年度入学式 学長訓辞」より一部抜粋）」と学生に対して話されました。この言葉は、入学した個々の学生に向けられた生き方のメッセージの一つだと思います。この言葉を、学校をはじめとする組織の視点として捉えると、現在の状態に対して常に、「本当に最善か？」と問いかけ、その問いに対する私たちの経験やスキル、知の財産を基として、一つ一つを確かめ、検証して進めていくことが、その組織の本当の力になることを教えてくれているように感じました。運動会という一つの取組を終えた今だからこそ、「本当に最善だったのか？」と私たち自身に問いかけ、今後の歩みにつなげていこうと思います。